

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果 (9月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成	(1)全職員的一致協力的指導(全体集会、集団行動(1年生オリエンテーション)、礼法指導(2・3年生))	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたった」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全体集会での指導に全職員で取り組む。 ・学年団、教科、分掌間の密な連携を行い、生徒に関する情報の共有を行う。 ・4月当初にオリエンテーションや体育の授業で礼法指導を徹底する。	・教職員の共通認識を図り、指導している。 ・1年生オリエンテーションがマナーアップに貢献した。	B	・引き続き全教職員で連携を図り、組織的な生徒指導を行う。 ・行事の場面はもちろん、日常から指導を重ねる。
	(2)挨拶・言葉使い・態度等の指導徹底	・年間8回実施した頭髪服装指導で4回以上指導を受けた生徒が46名(8.5%)であった。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全職員で日常的な挨拶の励行に務める。 ・「マナーアップ運動」などで、部活動の生徒による挨拶運動に継続して取り組む。 ・授業開始のチャイムと同時に挨拶を行い、時間厳守を徹底する。	・職員入室時の挨拶が適切に行われている。 ・高校生マナーアップさわやか運動などで、全職員・執行部員・各部活動の生徒の挨拶運動を通じ、マナー等の向上に努めている。	B	・引き続き全教職員・生徒会・各部活動で連携を図り、挨拶励行や言葉遣いの指導を行う。 ・様々な機会を捉えて、指導を徹底する。
	(3)生徒指導(頭髪服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・保護者に指導方針、指導内容の理解と協力を求め、頭髪服装指導で指導を受ける生徒数を減少させる。	・頭髪服装指導で年間4回以上指導を受ける生徒数が減少すればA。 ※	・全職員で日常的に指導すると共に、定期的な頭髪服装指導、身だしなみの向上を図る。 ・進路意識を常に持たせ、規律ある生活が送れるようにする。	・定期的な頭髪服装指導を実施し、担任と連携しながら粘り強く指導している。 ・保護者の協力を得ながら指導している。	B	・頭髪・服装指導など日常的な指導を徹底する。 ・引き続き保護者に、本校の指導方針への理解・協力を求める。
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。 ※	・登校指導を通じて、全職員で指導に当たるとともに、早期から保護者への連絡を徹底する。 ・学年、生徒指導部、教育相談部、生徒会等の連携を密にする。	・登校指導を通じて、遅刻指導を行っている。 ・1学期末10回以上遅刻している生徒は3名であった。	B	・担任・生徒指導部・保護者が連携して遅刻者数の減少を図る。 ・様々な機会を捉え、時間厳守の大切さを説く。
授業改革・学力向上	(1)授業公開、TT等を通しての相互研鑽による授業の質向上	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・本校では4名がエキスパート教員に認定されている。 ・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等を実施してきた。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・クラスの状況や生徒の理解度に応じて授業展開の工夫や補講・個別指導等を行う。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・エキスパート教員の実践を参考にしたり、研究授業、公開授業等各種研修の機会を活用するなど、相互研鑽を図る。 ・実習班の編成を工夫し、生徒による学び合いを推進する。 ・習熟度別の授業形態で基礎力の向上を図る。 ・定期考査前などに成績不振者対象の補講を行う。	・全職員が授業アンケートを実施した。生徒の授業への満足度は概ね高かった。 ・授業公開週間などを活用し、積極的に研修した。 ・TTや習熟度別授業は生徒の動きに教員の目が良く届き、生徒の授業への集中力アップにつながっている。 ・授業内容を実生活と結びつけ、理解が進むように工夫した。 ・定期テスト前に成績不振者対象の補習を行った。	B	・授業アンケートの結果を生かして、より興味のある授業展開を考察し工夫していく。 ・基礎学力や学習習慣が定着していない生徒への指導法を更に検討する。 ・生徒の意欲や言語活動が高まる工夫を授業に取り入れる。 ・発問・プリント・板書を工夫し、学習意欲が高まるよう指導する。
	(2)基礎学力の向上(SPI小テスト・模試による基礎学力向上)	・26年度はジュニアマイスター取得者が25名(ゴールド、シルバーの合計)であった。 ・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎力診断テスト(1、2年生を対象に実施)の平均点偏差値55以上を維持する。 ※	・SPI小テスト、就職模試や基礎力診断テストなどを実施し、進路選択を確実なものにする基礎学力の定着を図る。	・毎週水曜日にSPI小テストを実施している。 ・7月実施1年生基礎力診断テスト平均点偏差値は56.7、2年生は59.1であった。 ・3年生は就職模試、SPI校外模試、公務員模試などを実施した。 ・SPI小テストの低得点者に対して補習授業を行った。	A	・引き続き基礎学力を定着させ、就職・進学等に対応する力をつけるため対策を講じる。 ・低得点者に対して丁寧に指導する。
	(3)専門的資格取得の促進(ジュニアマイスター取得者増)		・ジュニアマイスター取得者を増加させる。	・実人数12名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。 ※	・早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促す。	・前期のジュニアマイスター取得者は10名であった。	A	・引き続き意欲的かつ積極的に取り組みよう、全職員で声かけを指導していく。
	(4)プレゼンテーション力の向上		・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・科内発表会を充実させ、専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。	・あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図った。	B	・引き続きプレゼンテーション力の向上を図るよう全職員で意思統一を図っていく。
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成	・26年度は就職希望者は100%内定した。	・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。3年生は学年合同LHRを実施する。また、1、2年生には学期毎のLHRを活用し、進路講演会を実施する。	・計画的に進路LHRや進路講演会を実施し、進路意識の確立を図った。 ・応募前見学には多くの生徒が参加するなど進路意識が高まっている。	B	・引き続き計画的に機会を捉えて健全な職業観・勤労観を育成していく。 ・面接指導、個別指導を一層充実させていく。
	(2)コミュニケーション能力の育成による進路実現(1分間スピーチ・面接指導の充実)		・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	・生徒「1分間スピーチはコミュニケーション力の向上に役立った。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話を高めたり、作文指導を徹底する。2、3年生に、面接で実力が発揮できるようSHRで1分間スピーチを行う。	・補習、各種模試、面接指導を充実させた。 ・3年生は1分間スピーチを取り入れ、プレゼンテーション力・コミュニケーション力もあわせて養った。	A	・引き続き進路ガイダンスや個別指導を通して、進路実現を図る。 ・2年生は3学期から1分間スピーチの取り組みを始める。
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で外部の方からも評価を受ける。 ※	・各科の専門性を生かせるよう企業開拓に努めるとともに、綿密な打ち合わせや事前指導を行い、研修を充実させる。	・インターンシップに向け事前指導を徹底した。 ・インターンシップ先との打ち合わせを綿密に行った。	B	・インターンシップ中の見回り等も充実させ、研修を充実させる。 ・様々な機会を捉え、職業観の育成を図る。
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立っている。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学科改編、バス料金制度改定を受け、研修計画を見直す。 ・研修先の精選と入念な計画により、効果的な研修となるよう務める。	・「研修旅行は勉強になった」との結果が95%を超えていた。 ・企業見学は勉強になった「と」の結果が90%を超えていた。 ・大規模な企業を見学し、進路意識の向上につなげ、職業観を養った。	A	・今年度の反省を行う研修旅行実施委員会、来年度に向けての研修旅行検討委員会の開催時期を早めるなど、次年度に向けての検討に万全を期す。

心の教育と部活動・生徒会活動の推進	(1) 部活動の活性化(部活稼働率の向上)		・運動部活動の奨励と強化、文化部活動の活性化を図り、加入率と稼働率の向上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・部活動稼働率が95%以上ならばA。(1)	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を生徒会執行部より説明する等オリエンテーションを充実させる。 ・部活動を継続するための指導を徹底する。	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を説いた。 ・4月末時点で、全校生徒の部活動加入率は90.3%である。	A	・社会性を養うためにも、部活動の意義を折に触れて強調する。 ・部活動活性化に向け、引き続き加入率・稼働率の向上を図る。
	(2) 生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実)	・26年度の部活動加入率は85.6%、稼働率は97%であった。 ・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等とおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導する。生徒が達成感を持つことができるように、生徒会を中心に学校行事に全員が関わられるように工夫をする。	・学校祭では生徒の自発的な創意工夫が見られた。 ・執行部が学校祭全体の企画から取り組み、各クラスのサポートにも自発的に取り組んだ。	B	・引き続き生徒会を中心として、自発的な活動ができるよう取り組む。 ・生徒が達成感を持つことができる取り組みを引き続き工夫する。
	(3) 心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるにつれ、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに朝読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・図書委員会活動や早期貸出等の朝読書に関わる取組を推進する。 ・毎月1回の早期貸出しを行い、朝読書の啓発を図る。	・朝読書は順調に取り組めている。 ・朝読強化週間における昇降口貸し出しなどに取り組んだ。	B	・図書委員会の活動や早期貸し出し等の取り組みに引き続き取り組む。 ・読書の大切さを折に触れて強調する。
	(4) 人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・人権教育部専任と担任団の連携を密にし、生徒の実態に応じた学年ごとの人権教育の具体的な取り組みを設定する。 ・生徒が主体的に参加できる人権教育LHRの展開を図る。	・6月に行った人権教育LHRでは各学年とも前向きに取り組んだ。	B	・年間計画に基づき、各学年の実態に応じた講演会や授業案を提示し、分掌と担任団との連携をより密にしていく。
ものづくり人材育成	(1) 安全教育の推進		・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育が推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・実習時に5Sと運動した安全面での指導の徹底を図る。	・実習の始めに安全指導を行い、終わりに5Sを徹底した。	A	・引き続き5Sと運動した安全面の指導徹底を図る。
	(2) 5Sの徹底	・朝清掃を行い、環境への意識を向上してきた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・5Sの徹底を図るとともに、環境問題へ意欲的に取り組む意識を育てる。	・5Sの徹底を行い、ゴミの減量化にも取り組んだ。 ・身だしなみなどにも重点を置いた。	A	・今後も掃除の指導を徹底し、5Sの徹底を図る。
	(3) ものづくり事業の充実(地域委員会等との連携)	・若年者ものづくり競技大会電気工事職種で3位、電子回路職種で敢闘賞を受賞するなど、大きな成果をあげた。	・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・地域委員会と連携し、ものづくり事業の充実を図る。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	・ものづくりコンテストへの参加を推奨し、入賞を目指す。 ・地域委員会を活性化し、専門教育の改善を図る。	・ものづくりコンテストに出場し、各部門とも上位入賞を果たしている。 ・昨年度の地域委員会の提言に従い、改善を図っている。	B	・機会を捉え、ものづくりコンテストへの参加を奨励していく。 ・今年度も11月に地域委員会を開催し、今後の工業教育に生かしていく。
開かれた学校づくり	(1) 地域社会や小中学校との連携	・昨年度は中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をとおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらえた。	・地域社会や中学校等に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等とおして、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校見学会(12月)の内容を見直し、中学校教員対象学校説明会(6月)を充実させる。 ・中学生体験学習(7月)を引き続き行い、中学生への適切な情報提供を行う。	・中学生体験学習で「本校教育に興味を持てた」と答えた中学生が90%を超えた。当日は本校の生徒も協力し、中学生の本校教育への理解が深まった。 ・近隣へ出かけ、各科の実習の成果を生かし各種ボランティアを行った。	A	・中学生体験学習に多くの生徒が参加したが、科の特長を十分に伝えるには参加人数が多すぎる科もあり、今後の検討が必要である。 ・引き続き各科とも各種ボランティア活動に積極的に取り組む。
	(2) ホームページやメール配信による情報発信の充実	・HPを改善し、学校からの情報発信の充実を務めた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ホームページの内容を定期的に更新することにより、情報発信の充実を図る。 ・メール配信をこまめに行うことで、保護者へより迅速かつ確実に情報を伝える。	・ホームページを定期的に更新した。 ・まちこみメールをこまめに発信し、本校の教育活動を周知した。	B	・行事ごとの情報発信をできるだけ早く行うよう徹底する。 ・新聞への記事掲載やテレビ出演の機会もあり、本校の情報発信として大きな効果があった。
	(3) PTA活動の推進		・「開かれた学校づくり」を念頭に置き、保護者・地域と連携して諸活動に取り組む。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(2)	・PTA活動への参加の呼びかけを様々な機会を捉えて行う。 ・学校行事の案内をより丁寧に行い、保護者への周知を図る。	・学校祭、研修旅行などに多くの保護者が参加した。	B	・PTA活動への呼びかけを丹念に行なった結果、PTAの学校祭での取り組みに多くの保護者が協力した。

27年度 評価基準

アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(2)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による